

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2021年5月30日(日)

主 題：「平安がありますように」

—神の恵みの中に—

テキスト：第一ペテロの手紙5章12～14節

はじめに

- ペテロの手紙第一講解メッセージは、きょうが最終回となりました。
この書簡の最後のあいさつを見ていきましょう。主のお許しの下で、ここまでくることができた幸いに感謝します。
- ところで、コロナパンデミックは猛威を振るっています。昨年の春から1年以上となりますが、会堂での聖日礼拝が何度も中止となり「オンライン礼拝」となりました。この期間、兄弟姉妹と直接顔を合わせてともに礼拝し、交わりを持たせていただいたことは何度あったことでしょうか。
- 以前は会堂に集まり、一緒に礼拝をお捧げすることは普通でした。当たり前とっていました。しかし、今ではともに集まり礼拝できるということは「神の恵み」であることが分かります。きっとオンライン礼拝に参加されている皆さんも、同感ではないでしょうか。恵みの中に置かれていたときは、恵みを恵みと感ずることなく過ごしていました。いわゆる「恵みズレ」でした。
- 皆さん。イエスの弟子たちも主イエスともにいたとき、恵みを恵みと感ずることは少なかったのではと思います。彼らが真に「神の恵み」を悟ったのは、イエスが十字架にかかり、三日目に死から復活された後でした。いや、手の釘痕を弟子たちに見せられた後であったでしょう。このお方は、まことにメシア（救い主）と悟りました。弟子たちも「恵みズレ」を経験したことでしよう。
- 私たち人間は、そのように弱いものではないでしょうか。
何度も申しますが、ペテロはこの書簡を、離散し苦難と迫害下にあった聖徒たちに送りました。しかし彼は、次のように述べました。
5:12 忠実な兄弟として私が信頼しているシルワノによって、私は簡潔に書き送り、勧めをし、これが神のまことの恵みであることを証ししました。この恵みの中にしっかりと立っていなさい。
- 苦しみの中にあつた聖徒たちに、「これが神のまことの恵みであることを証ししました。」と述べました。苦しみの中にあつても、それは「神の恵み」であつたと言い、ペテロはこの書簡を結びました。ここに真の意味で、神を信じて歩む人の幸いを見ることが出来ます。
- 今日、私たちはペテロが述べた「神の恵み」について考えてみたいと思います。大切なことは2点あります。

大切なポイント**1. 「神の恵み」の中に立つ**

- ・ 5:12 忠実な兄弟として私が信頼しているシルワノによって、私は簡潔に書き送り、勧めをし、これが神のまことの恵みであることを証しました。この恵みの中にしっかりと立っていなさい。

1) 神のまことの恵み

- ・ 「この恵み」は、「神のまことの恵み」です。ペテロがこの手紙で書いてきたことは、「神の恵み」であるということです。皆さん！ この手紙を初めからもう一度読み直してみてください。繰り返し、繰り返し、語られてきたことは、ユダヤ人クリスチャンが経験した苦しみでした。
- ・ その内容を表現している聖句は次です。
5:10 あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあって永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみした後で回復させ、強く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。
- ・ 彼らの生活がそうであったように、私たちの人生にも様々な悩み、困難があります。他の人から批判されたり、誤解されたり、攻撃されたり、意地悪されたり、迫害されたりすることがあります。しかしどのような苦しみでも永遠に続くわけではありません。
- ・ しばらくの苦しみした後で、神が回復させてくださいます。神が強く立たせてくださいます。強くし、不動の者としてくださいます。しかし、それが頭では理解していても、実際に苦しみに直面すると、神の恵みから外れてしまったのではないかと思います。しかし、それは違います。
- ・ 私たちは「神の恵み」の御手の内にあります。預言者イザヤは、苦しみの中にある民に次のように語りました。イザヤ書
63:9 彼らが苦しむときには、いつも主も苦しみ、主の臨在の御使いが彼らを救った。その愛とあわれみによって、主は彼らを贖い、昔からずっと彼らを背負い、担ってくださった。

{例 話} 「最後の講義」(The Last Lecture) から

- ・ NHK・TVで、“もし今日が、人生最後の日であるとするならば、あなたは何を語りますか？”という番組がありました。各界の第一人者が大学最後の授業を迎えて、何を語るかという中身の濃い、じつに興味深い番組でした。ハッとするような講演に、若者たちの心が動かされていました。いや、私も心動かされた一人でした。
- ・ その中で、ある講演者が次のように語りました。「世の中、強者が必ずしも勝利者ではない。弱者も勝利者となることがある。人生で勝利を得るカギは、適用（置かれたところで、どれだけ適用できるか）にかかっている。」つまり、どれだけ知識を得たかではなく、学んだことを置かれた所で、どれだけ実践できるかということです。
- ・ 私はこの講演を聞きながら、クリスチャンにも語れていると思いました。聖書を研究し、聖書を学ぶことはたいへん貴重なことです。しかし、それを頭で理解していたとしても、実践生活でその学びを適用しなければ、学んだ効果はどこにあるのでしょうか。
- ・ ペテロは「この恵みの中にしっかりと立っていなさい。」(5:12) と励ましを与えました。

2) 「神の恵み」の適用

- ・ では、どうすれば学んだことを日常生活に適用できるのでしょうか。

① 神のみことばへ信頼を持つこと

神が権威をもってお語りくださる聖書のことばに信頼を持つことです。みことばへの信頼は、確信へと導いてくれます。マタイ福音書

24:35 天地は消え去ります。しかしわたしのことばは決して消えさること
がありません。

② 神にみことばの適用を求め祈ること

私たちがまことに、みことばの適応を求め祈るならば、神は手を差し伸べ助けてくださいます。ヨハネ福音書

14:16 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与え くださり、その
助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。

- もう一人の助け主である聖霊は、私たちがみことばを適用できるよう助けてくださいます。私たちは経験を積むことによって、信仰が強められ、そして成長していきます。方法は“ケース・バイ・ケース”で、多様です。しかし、そこに主がともにいてくださり、主のみわざを経験するならば、勝利者となることができます。
- 人生の試練、苦しみの中にあるときこそ、主を経験できるチャンスです。つぶやきは何の助けにもなりません。心を静めて、みことばの中に生きる主を信頼することです。その人こそ、「主の恵みの中に立つ人」であります。

2. 主にある「交わりの恵み」

5:12 忠実な兄弟として私が信頼しているシルワノによって、私は簡潔に書き送り、勧めをし、これが神のまことの恵みであることを証しました。この恵みの中にしっかりと立っていなさい。

- ペテロはここから「交わりの恵み」を述べています。

1) 主にある「交わりの恵み」

① シルワノ

シルワノは「使徒の働き」では、「シラス」と呼ばれている人です。彼はもともとはエルサレムにいましたが、パウロやバルナバがアンティオキアからやって来て開いた「エルサレム会議」のあと、パウロとバルナバについてアンティオキアに下りました。

- その後、パウロの2回目の伝道旅行で、パウロがアシスタントとして選んだ人物です。このシラスについて、ペテロは「忠実な兄弟として私が信頼している」と書いています。シラスは自分に委ねられた責任をしっかりと果たす人でした。またシラスには人を励ます賜物もあったようです。

使徒の働き

15:32 ユダもシラスも預言者であったので、多くのことばをもって兄弟たちを励まし、力づけた。

使徒の働き

- そのシラス（シルワノ）が、ペテロの手紙を口述筆記するとともに、その手紙を携えて行こうとしていました。ですからペテロは簡潔に書くだけで良かったのです。シラスはペテロの手紙を朗読するとともに、その意味するところを説き明かすこともできたからです。

- ・ペテロは偉大な教会の指導者でしたが、彼一人で動いたわけではありませんでした。彼には良い協力者がいました。忠実な協力者がいてくれることは、とても幸いなことです。
- ・私たちが教会の奉仕をするとき、共に労する仲間の存在は大変ありがたいことです。あなたのシラス（シルワノ）は、だれでしょうか。あるいは、あなたがシラス（シルワノ）となっているでしょうか。

② バビロンの教会

5:13 あなたがたとともに選ばれたバビロンの教会と、私の子マルコが、あなたがたによろしくと言っています。

- ・ここでいうバビロンはローマのことです。ローマは当時、最大の都市で世を表す象徴でした。そこにキリストの教会はすでに存在しておりました。あなたがたとともに、とペテロが言った人々は、小アジア（現在のトルコ）にいたユダヤ人クリスチャンです。ですから、離散したユダヤ人クリスチャンもローマの教会のクリスチャンも、神によって選ばれた兄弟姉妹でした。その距離、たぶん2千キロメートルはあるでしょう。
- ・会ったこと、見たことがなくても、遠く離れた教会の間に交わりが成り立ちます。そこにクリスチャンの交わりの幸いがあります。

③ マルコ

5:13 私の子マルコが、あなたがたによろしくと言っています。

- ・マルコは、新約聖書のマルコの福音書を書いたマルコです。彼はもともとエルサレムにいました。彼の家にはイエスと弟子たちが出入りしていたようです。彼はまだ若者でした。
- ・その後、マルコはアンティオキアに来て、パウロとバルナバの伝道旅行について行くことになりました。ところが旅の途中でパウロとバルナバから離れ、アンティオキアに帰って行ってしまいました。
- ・そのためパウロは2回目の伝道旅行に出発するとき、パウロはマルコを連れて行くことに反対しました。結果、パウロとバルナバは別行動をとるようになりました。マルコは奔放というか、無責任というか、未熟なところもあったと思われま。それでパウロからは叱られましたが、バルナバに拾ってもらいました。

2) 主にある「交わりの恵み」による成長

- ・しかし、こうした経験を通してマルコは成長したのでしょうか。彼はローマでペテロの働きを支えるようになりました。それで生まれたのはマルコの福音書です。パウロも、立派に成長したマルコを評価するようになりました。第2テモテの手紙4章では、次のように書いています。2テモテ4章

4:11 ルカだけが私とともにいます。マルコを伴って、一緒に来てください。彼は私の務めのために役に立つからです。

皆さん。 どのような働き人にも、育てた人がいます。

- ・私の人生を振り返ると、私が育てられたのは、やはりドイツの Duesseldorf 時代であったと思います。30歳で主様に献身した私は、人間的にまだまだ未熟な若者でした。デュッセルドルフの駐在員の方々は、油がのった中年・壮年の方々でした。ビジネスマン、新聞社の特派員、ジャーナリスト、医師、音楽家などでした。
- ・彼らは自分たちより年若い私を、神が立てた指導者として支さえてくださいました。じつに多くのことを教えられ、今も忘れられません。そして幸いなことは、その交わりは現在まで40年以上も続いていることです。
- ・知識的には、Wiedenest Bible College での素晴らしい学びの機会が与えられたことは「神の恵み」でした。この神学校での学びは、私の生涯に大きな影響を与えてくれました。神学校での勉強を終えて帰国する私に、校長先生は「君はこれから日本に帰国して、これまで受けた「神の恵み」を伝えなさい。」と言われました。忘れられない言葉です。このように私の人生にも、私を育ててくれた先人たちがいました。
- ・クリスチャンの交わりには、「育てる交わり」、「育てられる交わり」があります。そのような「主にある交わり」は、互いの徳を高め合い、「神の恵み」によって成長していきます。
- ・ここで少し考えて下さい。あなたは誰によって、成長されてきたでしょうか。あなたはそのことに感謝していますか。またあなたは、誰かを育てているでしょうか。→ 「相互牧会」であります。

3) 愛のあいさつ

5:14 愛の口づけをもって互いにあいさつを交わしなさい。

- ・ユダヤ教では弟子がラビの頬に口づけするのが、習慣でした。2世紀の教会の記録には、聖餐式の前に互いに頬に口づけを交わし、愛と一致を表現しました。世界的に見れば、ハグし合うとか、握手を交わす教会は多くあります。
- ・旧東欧の国々の一部には、まだこのような習慣が残っています。互いに愛と一致を表現し合うことが大切だと思います。日本の習慣は違いますが、日本にあった方法で、互いに愛と一致を表現することは大切だと思います。
- ・愛する兄弟姉妹。このような横のつながり、クリスチャン同士の交わりによって、互いに支えられ、導かれ成長します。そして教会が教会として立てられていくのです。またこのような交わりを通して、「神の恵み」の確かさを経験していくものです。
- ・神の子どもたちには、苦しみ、悩み、戦いがあっても、平安が与えられます。ペテロは平安を祈る言葉で、この手紙を結びました。

5:14 キリストにあるあなたがたすべての者に、平安がありますように。

平安がありますように (Shalom: シャローム)

- ・私もこのシャロームで、第一ペテロの手紙に講解メッセージを終わりたいと思います。

ま と め

主 題：「平安がありますように」

—神の恵みの中に—

- ・主は今日も、第一ペテロの最後の部分を通してお語りくださいました。
 - ・5:12 忠実な兄弟として私が信頼しているシルワノによって、私は簡潔に書き送り、勧めをし、これが神のまことの恵みであることを証しました。この恵みの中にしっかりと立っていなさい。
- ・2点大切なことを学びました。
 1. 「神の恵み」の中に立つ
 2. 主にある「交わりの恵み」
- ・クリスチャンはこのように、神の幸いな家族につながれる者です。苦しみ、悲しみ、痛み、戦い等があります。ペテロはそのような課題を持つ離散ユダヤ人クリスチャンに対して、この書簡を書き送りました。
- ・そこで私が、とくに覚えたい聖句は次です。

5:7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。 1 ペテロ
- ・そして：

5:14 キリストにあるあなたがたすべての者に、平安がありますように。

1 ペテロ

* God bless you!